

～気づきと学びの連鎖～

矢作川水系森林ボランティア協議会（愛知県）

「無償奉仕」から
「気づきと学び」へ

とかく無償奉仕をイメージされる森林ボランティアですが、矢作川水系森林ボランティア協議会（略称：矢森協）はそれを大きく変えようとしています。矢森協の代表を務める丹羽健司さんは言います。

「森林ボランティアにできることは、
「気づきと学び」を伝えることです。
森林塾で学び感動した森の大切さや
人工林の豊かさ、山仕事の科学性と
愉しさを地元の素人山主さんや都市
住民に伝えます。それは多分私たち
にしかできないことです」

丹羽さんは続けます。

「森林ボランティアでできる人工林
整備面積なんて微々たるものであり、
担い手はあくまでプロ林業者です。
私たちのできることは、関心が
薄く知識や技術を持たない素人山主
さんたちを「その気」にさせること
なんです。一緒に山に入り山仕事を
することで、これまで「お荷物」で
しかなかった人工林が「お宝」に思
えるようにしたい。都市住民も一緒
になって山主やプロ林業者を応援す
るのが森林ボランティアなんです」



指導者による模範伐木

矢森協は、二〇〇四年一月に、知識や技術が一定以上のレベルである人工林森林ボランティアグループの連合体として結成されました。現在は、九グループに分かれ、構成員は計二〇〇人を越えます。愛知県豊田市と協働して開催されてきた森林塾の修了生らにより、毎年グループが誕生しています。ちなみに、一定以上のレベルとは《科学的に人工林を診断・処方でき、かつ安全確実にチェーンソーで伐木・造材できること》を指します。

矢森協の活動には、「森の健康診断」と「森林ボランティア協働間伐モデル林」があります。「森の健康診断」は、二〇〇五年六月に全国で



森の健康診断に使う 100 円グッズ調査器具



手作り簡易樹高測定「尺蔵」



釣り竿を使って、目測による樹高測定

初めて行われました。数百人の一般市民が一斉に流域の人工林に入って調査を行い、その結果をボランティアとして参加する研究者が解析、報告書を作成して発表し地域に還元されます。この活動が評価されて、今では東海地方を中心に全国に広がっています。

「森林ボランティア協働間伐モデル林」は、幹線道路沿いに目立つ放置

人工林を矢森協と地域住民の方々が一緒になって調査し間伐作業を行います。

作業をしていた、ある若い山主さんが言ったそうです。

「山仕事ってこんなに愉しかったのか」

活動を通じて「気づきと学びの連鎖」が確実に広がっています。その連鎖は、今後全国に波及していくことでしょう。

data

〒450-0001

愛知県名古屋市中村区那古野 1-44-17
嶋田ビル 203

(問)090-4160-9065

<http://www.yamorikyoku.com/>

「第1回森の健康診断」2005年6月4日に行われました

